

第 35 回中国地方ダム等管理フォローアップ委員会

苫田ダム定期報告書の総括

- 「第 35 回中国地方ダム等管理フォローアップ委員会」において、「苫田ダム定期報告書」の審議を行った。
- 審議は、「防災操作、利水補給、堆砂、水質、生物、水源地域動態」の 6 項目について、令和元年度から令和 5 年度までの期間を主な対象として行った。

各項目に関する審議結果は以下のとおりである。

1. 「防災操作」

評価期間である令和元年度から令和 5 年度の間にダム洪水量（200m³/s）を超えるような洪水が 4 回発生したが、必要なダム操作により所期の機能を発揮している。

今後、気候変動の影響により水害の激甚化・頻発化が懸念される。引き続き適切な防災操作を行うと共に、ダムが持つ治水上の効果を最大限発揮できるよう貯水容量の有効活用に取り組まれない。

2. 「利水補給」

所期の機能を発揮し、受益地に貢献しているが、河川流量が低下傾向であり、利水補給への影響が懸念される。今後も貯留水を適切に管理・運用し、受益地への利水補給を行われたい。

3. 「堆砂」

貯水池内の堆砂量は堆砂容量の 17%程度を占めているが管理上の問題は生じていない。適切な方法により測量等を継続して実施し、洪水調節容量等への影響に留意しながら堆砂状況を把握されたい。

4. 「水質」

利水上の問題は生じてはいないが、アオコの発生といった富栄養化現象や魚類の斃死等が発生している。このため、ダムの管理・運用に必要な水質や底質の調査を継続し、水質の問題について、必要に応じて対策を検討されたい。

特に、今後アオコの発生状況の悪化も想定され、湖面の利活用など利水以外の影響も拡大・顕在化していることから、利水への影響に加えて現在のダム湖面の利活用の状況に留意したアオコ対策の具体化に取り組まれない。

5. 「生物」

生物の生息・生育状況に大きな変化は確認されていないが、今後も調査を継続し生物の生息・生育状況と周辺環境の把握に努められたい。また、下流河川環境の把握については河川水辺の国勢調査に位置づけ、継続的な調査を実施されたい。

環境保全対策については、一定の効果を発揮しているが、維持管理上の課題を有する対策も見られる。このため、対応可能な維持管理方法を検討し、実施するとともに、河川水辺の国勢調査等を活用し、その効果把握に努められたい。

6. 「水源地域動態」

苫田ダムが果たす治水や利水の役割について、その貢献状況が地域や受益地に広く理解されるように継続的かつ効果的な PR 活動やサポートに取り組まれない。

また、地域が苫田ダムの地域資源としての価値を評価していることから、ダムを活用した地域活性化活動への効果的な貢献を果たすために、河川空間のオープン化等の既存制度の活用や新たな地域連携スキーム構築の実現について取り組まれない。

以上